

大山診療所運営計画

大山町

索引

| | |
|---------------------------|--------|
| はじめに | ・・・ 1 |
| 第1章 大山診療所の現状 | |
| 1. 大山診療所の概要 | ・・・ 2 |
| 2. 大山診療所の沿革 | ・・・ 3 |
| 3. 大山診療所の診療圏及び周辺の人口推移 | ・・・ 4 |
| 4. 医療機能数値の状況 | ・・・ 5 |
| 5. 経営状況 | ・・・ 6 |
| 6. 鳥取大学家庭医療教育ステーションの開設と現状 | ・・・ 8 |
| 7. 現状の課題 | ・・・ 8 |
| 第2章 大山診療所の役割の明確化 | |
| 1. 大山診療所の役割 | ・・・ 9 |
| 第3章 経営の効率化 | |
| 1. 経営効率化に向けた取り組み | ・・・ 10 |
| 2. 医療機能等に係る数値目標 | ・・・ 10 |
| 3. 収支計画に係る数値目標 | ・・・ 11 |
| 第4章 運営形態の見直し | ・・・ 11 |
| おわりに | ・・・ 11 |

はじめに

大山町は、平成17年3月に旧中山町、旧名和町、旧大山町の3町合併により誕生した、鳥取県西部に位置する海と山とに恵まれた自然豊かな町です。

大山診療所は、旧大山町の大山小学校区を主な診療圏とする国民健康保険直営診療所であり、へき地診療所として地域医療の提供に努めています。

・計画策定の背景

人口減少に歯止めがかからない過疎地域の診療所として、国保直営で運営を継続しています。長年常勤医師が不在となり、入院部門の廃止など厳しい運営状況の中でも健診設備の充実や鳥取大学との連携による医師派遣など地域医療を確保するための施策を行ってきています。平成30年には、鳥取大学と「鳥取大学家庭医療教育ステーション設置に関する協定書」を締結し、それに伴い長年不在だった常勤医師の確保が実現しました。これをきっかけとして、経営面の改善はもとより、地域住民ニーズへの対応や、将来を見据えた安定的な医療の確保を目的として、地域医療のあり方も含めて当診療所の運営計画を策定します。

・計画の期間

本計画の期間は、令和2年度から令和6年度の5年間とします。

・計画の評価及び公表

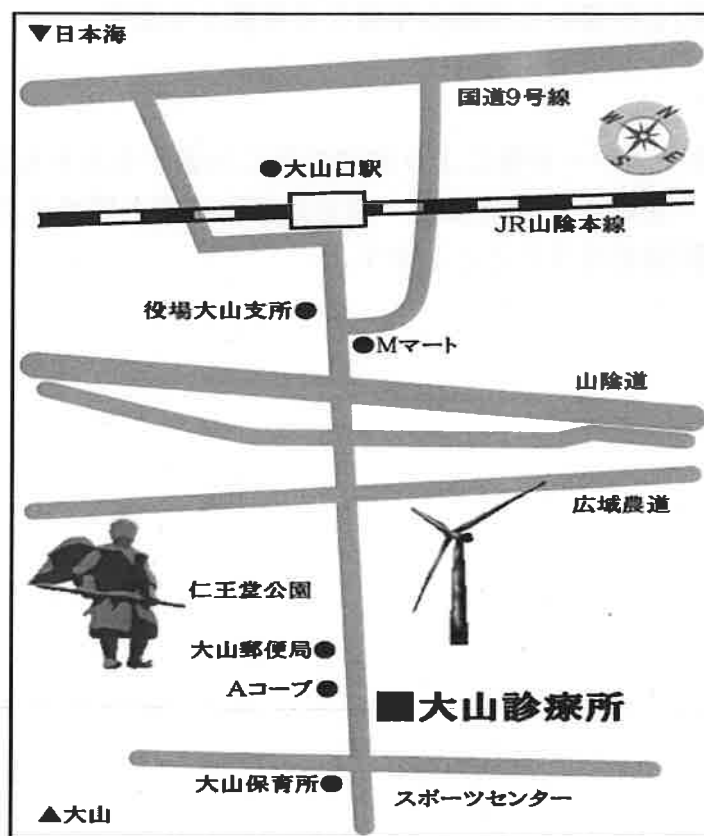
本計画は、策定後、ホームページ等により地域住民に公表するとともに、計画に基づき当診療所が取り組む医療機能強化・経営効率化施策を踏まえた数値目標等について、毎年度評価を行うこととします。

第1章 大山診療所の現状

1. 大山診療所の概要

| | |
|-----------------------|---|
| 名称 | 大山町国民健康保険大山診療所 |
| 所在地 | 鳥取県西伯郡大山町今在家475 |
| 設立年月日 | 昭和30年11月2日 |
| 診療科目 | 内科、小児科、外科、循環器内科 |
| 診療設備 | CT、レントゲン、腹部エコー、胃カメラ、眼底カメラ、心電計 |
| 職員体制 | 医師1名 看護師（フルタイム会計年度任用職員）2名 事務職員（フルタイム会計年度任用職員）2名 清掃職員（パートタイム会計年度任用職員）1名 |
| 休診日 | 毎週土・日曜日、祝日、年末年始 |
| 診療所圏域の人口 (半径4km以内) | 約1,800人 |

【大山診療所周辺図】



2. 沿革・変遷

- 昭和 14 年 大山村国民健康保険組合設立にあわせ、旧大山村営大山診療所を設置
(当時の組合員数 489 人 被保険者 2,856 人)
- 昭和 30 年 旧大山町が誕生 町営診療所となる。
- 昭和 52 年 閉鎖寸前の診療所建て直しのため、常勤医師として芦田医師が着任
- 平成 12 年 入院病床 19 床のうち介護病棟を増築して介護療養型病床 (9 床) に転床
- 平成 16 年 大山診療所外来部門と入院病棟 (10 床) を増改築
- 平成 18 年 芦田医師退職 常勤医師交替 外来と入院は継続
- 平成 19 年 後任医師が退職となり固定が不在となる。芦田医師を非常勤医師として再雇用
- 平成 20 年 入院部門の休止を条件に常勤医師を確保
- 平成 21 年 再度、常勤医師が不在となる。芦田医師を非常勤医師として再々雇用
- 平成 23 年 入院廃止。入院施設部分を社会福祉法人の特別養護老人ホームとして貸し出し。外来診療は継続
- 平成 28 年 健(検)診用機器を購入し大山診療所で人間ドック開始
- 平成 30 年 芦田医師は週 1 から 2 日の勤務で、他に非常勤医師 1 人、町内民間診療所医師 (非常勤医師) 1 人、鳥取大学医学部から出張診療により応急的な体制で診療を継続している。
- 平成 30 年 鳥取大学と「鳥取大学家庭医療教育ステーション設置に関する協定書」を締結
- 平成 31 年 朴大晃医師が所長として着任、同時に家庭医療教育ステーションの運営も開始。

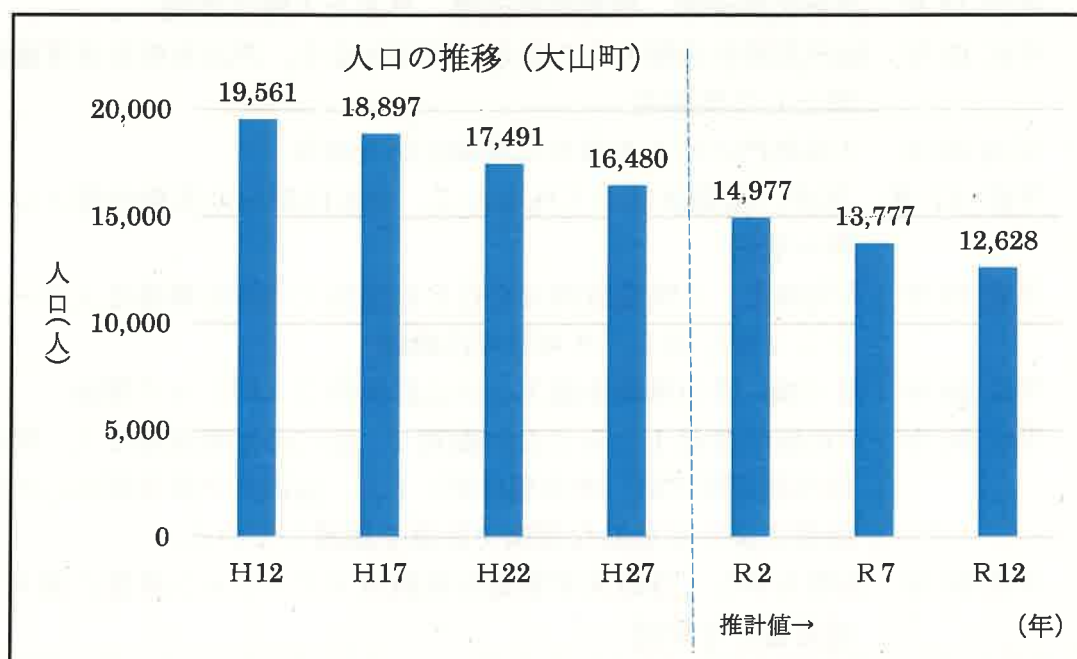
3. 大山町及び診療圏の人口推移

大山町、診療圏ともに人口は減少が続いており、今後も減少していく見込みとなっています。

1) 大山町の人口推移（国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所より）

単位：人

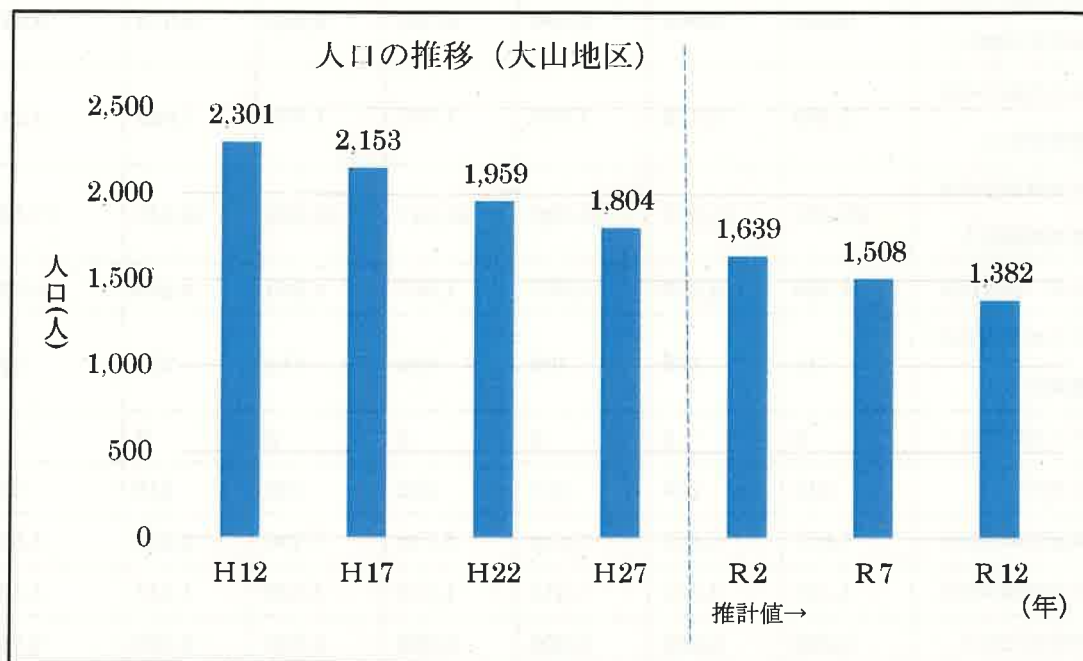
| | H12 | H17 | H22 | H27 | (推 計 値) | | |
|-----|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|
| | | | | | R2 | R7 | R12 |
| 人 口 | 19,561 | 18,897 | 17,491 | 16,480 | 14,977 | 13,777 | 12,628 |



2) 診療圏の人口

単位：人

| | H12 | H17 | H22 | H27 | (推 計 値) | | |
|-----|-------|-------|-------|-------|---------|-------|-------|
| | | | | | R2 | R7 | R12 |
| 人 口 | 2,301 | 2,153 | 1,959 | 1,804 | 1,639 | 1,508 | 1,382 |



4. 医療機能数値の状況

単位：件

| | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 (見込み) |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------------|
| 外来件数 | 2,690 | 2,574 | 2,475 | 2,573 | 2,693 | 2,777 | 3,304 |
| 外来日数 | 3,268 | 3,191 | 3,138 | 3,267 | 3,266 | 3,353 | 4,216 |
| 往診件数 | 23 | 40 | 60 | 43 | 8 | 31 | 77 |
| 予防接種 件数 | 238 | 341 | 323 | 325 | 331 | 322 | 328 |

5. 経営状況

決算状況（過去6年）

【大山診療所 決算の推移 H25-H30】

◆歳出

単位：千円

| 科目 | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 (見込み) |
|--------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------|
| 国民健康保険外 来診療報酬収入 | 6,026 | 5,505 | 5,798 | 5,781 | 6,226 | 6,578 | 8,012 |
| 社会保険外来診 療報酬収入 | 2,380 | 2,416 | 1,950 | 1,707 | 1,909 | 1,863 | 3,211 |
| 後期高齢者外来 診療報酬収入 | 22,283 | 21,572 | 19,690 | 18,557 | 16,325 | 16,841 | 17,191 |
| 外来一部負担金 | 5,206 | 4,978 | 4,887 | 4,867 | 4,840 | 4,883 | 5,724 |
| その他外来診療 報酬収入 | 711 | 569 | 480 | 403 | 312 | 299 | 390 |
| その他診療収入 | 0 | 2 | 5 | 5 | 2 | 0 | 0 |
| 文書料 | 240 | 268 | 207 | 222 | 189 | 219 | 215 |
| 健康診断手数料 | 1,077 | 1,503 | 1,410 | 3,750 | 7,196 | 3,202 | 3,926 |
| 予防接種手数料 | 1,137 | 1,371 | 1,414 | 1,414 | 1,429 | 1,412 | 1,161 |
| 財産貸付収入 | 5,000 | 5,000 | 5,000 | 5,000 | 3,700 | 3,700 | 3,700 |
| 国県補助金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 借入金（起債） | 0 | 0 | 0 | 2,214 | 4,600 | 0 | 2,000 |
| 繰入金 (起債償還ルール分) | 11,399 | 5,702 | 5,702 | 5,702 | 5,701 | 5,701 | 5,701 |
| 繰入金 (財源補填) | 6,614 | 3,852 | 14,348 | 10,389 | 13,844 | 25,472 | 12,816 |
| 繰入金 (国保繰入金) | 4,557 | 4,863 | 3,571 | 5,406 | 5,582 | 7,577 | 4,500 |
| 繰越金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 町預金利子 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 雑入 | 4,676 | 4,615 | 4,570 | 4,931 | 4,545 | 4,671 | 4,670 |
| 合計 | 71,311 | 62,221 | 69,037 | 70,350 | 76,405 | 82,424 | 73,211 |
| うち医業収益 | 39,063 | 38,187 | 35,845 | 36,708 | 38,431 | 35,301 | 39,833 |

◆歳入

単位：千円

| | H25 | H26 | H27 | H28 | H29 | H30 | R1 (見込み) |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------------|
| 総務費 (人件費) | 24,949 | 22,908 | 23,583 | 25,800 | 28,603 | 33,049 | 30,904 |
| 総務費 (その他) | 11,323 | 12,688 | 11,039 | 12,210 | 12,094 | 20,416 | 14,871 |
| 医業費 (医薬材料費) | 18,648 | 17,372 | 16,328 | 14,406 | 14,078 | 13,158 | 12,320 |
| 医業費 (その他) | 6,601 | 5,911 | 24,711 | 7,077 | 10,226 | 3,504 | 3,721 |
| 公債費 | 22,797 | 11,402 | 11,402 | 11,402 | 11,402 | 11,403 | 11,403 |
| 予備費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | | |
| 合計 | 84,320 | 70,283 | 87,066 | 70,897 | 76,405 | 81,532 | 73,221 |

| | | | | | | | |
|-------------|----------|---------|----------|-------|---|-----|---|
| 歳入歳出 差引額 | △ 13,009 | △ 8,062 | △ 18,028 | △ 546 | 0 | 892 | 0 |
|-------------|----------|---------|----------|-------|---|-----|---|

| | | | | | | | |
|---------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 実質収支 (歳入から財源補 填分除く) | △ 19,624 | △ 11,915 | △ 32,377 | △ 10,936 | △ 13,844 | △ 24,579 | △ 12,816 |
|---------------------------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|

大山町ではすべての直営診療所を国民健康保険診療所特別会計として運営しています。大山診療所の経営状況は、歳出を医業収益だけではまかなうことはできず、町の一般会計からの繰入金による財源補填なくしては運営が難しい状況が続いています。

歳入のうち、医業収益はおおむね患者数に比例しており、健診体制等により多少の増減があります。

歳出に関しては、医師の体制や施設の整備などにより増減があるため、繰入金の額に大きく影響しています。

6. 鳥取大学家庭医療教育ステーションの開設と現状

平成30年11月1日、鳥取大学と大山町は大山診療所内に鳥取大学家庭医療教育ステーションを設置する協定を締結しました。

当時、大山診療所では常勤医師が確保できていませんでした。また、鳥取大学医学部では医学生が病院を訪れた患者を最初から診療する場が不足していました。このような状況で、診療所内に医学生の診療実習の場である家庭医療教育ステーションを置くことで、常勤医の確保と医学生実習の場の確保といった両者の課題を解決しようとするものでした。

平成31年4月から運営が開始され、通常の診療とあわせ、学生実習が行われています。また、診療以外にも、町民の疾病予防や健康増進啓発など学校や集落に出かけての活動など、地域の保健医療の充実が期待されるなかで、取り組みが進められています。

7. 現状の課題

診療圏のみならず、周辺人口も含めて人口減少には歯止めがかからない現状となっています。患者数の減少は医業収益の減少に繋がり、それに伴って、施設の稼働率が低迷し、医療機器更新に係る財源の確保が困難になるなど、厳しい経営状況によりいっそう拍車をかけるものとなります。今後も人口減少が見込まれることから、非常に大きな課題となっています。

また、大山町全体での医療体制確保のため、同じく国保直営診療所である名和診療所、大山口診療所や町の保健師、包括支援センターとの連携を深めることも必要とされます。

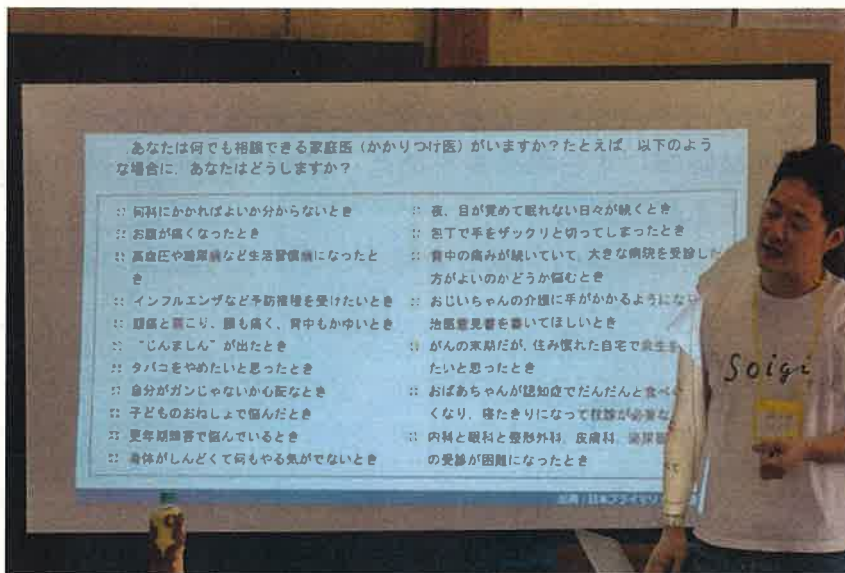
第2章 大山診療所の役割の明確化

1. 大山診療所の役割

大山診療所が所在する診療圏では中山間地で人口が少なく、他の医療機関との距離もあることから、当診療所の役割は非常に重要なものとなっています。地域住民に安心して暮らしてもらえる地域づくりに貢献するため、気軽に受診でき、継続的かつ安定的に良質な医療を提供できる体制を維持していくことが大きな役割と考えます。

また、疾病予防や健康増進の観点からも、集落へ出向いての健康教育実施など地域に根ざした医療機関となるとともに、福祉や介護部門との連携により、包括的な役割を担っていくことが求められます。現在も各種団体のイベントでの講話など積極的に参画しており、継続していくことで地域での意識変容へと繋げていくことも必要です。

さらに、家庭医療教育ステーションの運営による将来を見据えた医師、医療の確保は診療圏、大山町のみならず今後の地域医療のあり方にとって大きな役割を果たすものと考えられます。



【集落へ出向いての健康教室の様子】

第3章 経営の効率化

1. 経営効率化に向けた取り組み

人口減少が避けられない中で、運営継続のためには経営の効率化は避けられない状況であり、今後の具体的な取り組みについて定めます。

1) 健診体制の充実

特定検診及び保健指導の推進や健診体制の整備により、受診者数の向上に取り組みます。また、ニーズに応じて乳幼児健診にも対応します。

2) 予防接種、小児医療への積極的な取り組み

定期接種及び任意接種の各種予防接種が可能な医療機関とするとともに小児医療への対応を充実させます。

3) 後発（ジェネリック）医薬品の使用促進

後発医薬品を積極的に使用し、患者負担の軽減や経費の削減を図ります。

4) 往診、訪問診療の積極的な取り組み

緊急時の往診や定期的な訪問診療に積極的に取り組みます。

5) へき地交付金、各種町債の活用

施設運営経費、機器更新経費などにおいて、へき地交付金や交付税対象となる起債を最大限活用し経営の安定化を図ります。

6) 医療機器の計画的な更新

医療機器の使用状況や耐用年数を鑑みながら計画的な更新を行うことで、相対的に不測の故障等による修繕費を抑え、経営の安定化を図ります。

7) 支出の適正化による経費削減

運営状況に応じて支出経費の見直しを行うことにより経営の適正化に努めます。

2. 医療機能等に係る数値目標

単位：件

| | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 外来件数 | 3,440 | 3,580 | 3,720 | 3,880 | 4,000 |
| 外来日数 | 4,360 | 4,520 | 4,680 | 4,840 | 5,000 |
| 往診件数 | 85 | 93 | 101 | 108 | 115 |
| 予防接種 | 361 | 394 | 427 | 460 | 492 |

3. 収支計画に係る数値目標

単位：千円

| | R2 | R3 | R4 | R5 | R6 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 歳入 | | | | | |
| 合計 | 71,733 | 72,495 | 83,218 | 76,310 | 74,342 |
| うち医業収益 | 41,511 | 43,027 | 44,554 | 46,092 | 47,641 |
| 歳出 | | | | | |
| 合計 | 71,733 | 72,495 | 83,218 | 76,310 | 74,342 |

| | | | | | |
|-------------------|---------|---------|--------|--------|--------|
| 歳入歳出差引額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 実質収支 (財源補填分除く) | △11,515 | △10,542 | △9,559 | △8,539 | △7,464 |

第4章 運営形態の見直し

地域に根ざした診療所としての役割を果たし、多様化する住民ニーズに対応し運営を維持していくためには運営形態の見直しを行っていく必要があります。

地域自主組織を主体として発足した「地域医療を考える会」とともに、診療日、時間、往診、訪問看護、看取りなどの住民ニーズを踏まえながら運営形態の見直しを検討していきます。

おわりに

大山診療所は、過疎地域で振興山村地域にある国民健康保険直営診療所として厳しい経営状況にあります。本計画をもとに、地域の主治医として継続して安定した医療を提供していきます。

そして、地域医療を確保しつつ、健康増進、福祉、介護も含めた包括的な地域の拠点施設としての診療所を目指していきます。

